

概要版

経営改善計画

～「医療系総合大学」としての積極的な前進と改革のために～

令和3年3月改定
(平成29年10月策定)

公立大学法人 和歌山県立医科大学

経営改善計画の基本的な考え方

○経営改善計画の策定（平成29年10月）

和歌山県立医科大学は、「教育」「研究」「診療」を3本柱に様々な取組を実施。

- ・教育 医学・保健看護学に関する高度な専門的知識や技術を培う教育、地域医療を支える人材を育成する教育など
- ・研究 がんに関する研究をはじめ、先進的な研究を推進し、臨床研究センターを開設するなど研究体制を充実
- ・診療 大学病院かつ本県唯一の特定機能病院として、高度・先進的医療の提供により地域医療に貢献

一方で、取組の原動力となる人員体制の充実等による人件費の増加、医薬材料費の増加等により経費が膨らんだ結果、平成28年度決算において、平成18年度の法人化後、初めて経常赤字を計上（平成28年度決算：経常損益▲3.4億円）

これらを踏まえ、平成29年10月に経営改善計画を策定

- 基本方針 収入増加や経費抑制に関する経営改善の取組について、具体的な数値目標を定め、計画の着実な実行により、経常収支を黒字化し、収支バランスのとれた経営体制を確立
- 計画期間 平成29年度から令和5年度までの7ヶ年

○経営改善計画の検証（令和2年6月）

効果額について、平成29年度は目標を未達成、平成30年度、令和元年度は目標を達成。
経常利益はいずれの年度も黒字となった。

経常利益			(単位:億円)
H29年度	H30年度	R元年度	
0.4	9.3	6.8	

【平成29年度から令和元年度までの3ヵ年で取組成果を検証】

○経営改善計画の改定（令和3年3月）

経営改善計画を策定してから3年が経過しており、その結果や新たに発生した課題（医師の働き方改革など検討に時間を要している課題を除く）を反映させるために時点修正を行う。

経営改善計画改定のポイント

○新たな課題への対応

・診療備品購入費の変更

診療備品のサポート等の終了状況やその後の更新予定、新規備品の購入による新たな収益の確保など、計画策定時に想定できなかった事項に対応するため、経営への影響を考慮しつつ、費用の増額（改定前 令和2年度以降：7億円）。

目標値 R2・R3・R5：8億円 R4：6億円+トモセラピー更新7.2億円（県借入金はR5）

・定員管理計画

臨床研究センターの定員を最新版に更新し、令和3年6月に開始する外来維持透析を追加。

・施設整備等の大規模改修

施設の老朽化に対応する長期保全計画（大学：紀三井寺キャンパス部分、附属病院）により試算を行った結果等を反映。

H29～R5の総額 改定前:56.3億円 改定後:86.4億円

○計画の目標値の見直し

令和2年6月に実施した経営改善計画の検証結果を踏まえ、計画の目標値を更新。さらに、収入の増加や経費の抑制を図るため、既存の取組を見直し、新たな取組も実施する。

【収入の増加策】

・新外来患者数の増

直近の患者数や診療単価に更新 目標値 R2:20,852人、R3:20,766人、R4:23,763人、R5:27,306人

・新入院患者数の増

直近の患者数や診療単価に更新 目標値 R2:231,966人、R3:233,600人、R4:237,980人、R5:243,024人
病床利用率 (79.5%) (80%) (81.5%) (83%)

・診療報酬加算（病棟薬剤業務実施加算） 実績及び直近の患者数を踏まえた加算の目標値に更新

【支出の抑制策】

・医薬品費価格交渉

実績を踏まえて更新 目標値（対28年度） R2以降：▲114,204千円

・後発医薬品への切替

数量シェアの国の目標（80%）にとらわれることなく、経営への貢献度の高い医薬品を中心として、後発医薬品を導入。

目標値（対28年度） R2：▲6,130千円、R3：▲50,849千円、R4以降：▲106,748千円

・医療用機器保守費の抑制

高度先進医療の推進により医療機器が増加する中、保守委託費や修繕費の増加を抑制するため、メンテナンス手法を検討の上、総費用を抑制。 目標値（対28年度） R2以降：±0千円

・目的積立金の活用による後年度の減価償却費の抑制

目的積立金を活用して、建物・附属設備、構築物及び情報システムを整備。

目標値（対R元年度） R2：▲4,269千円、R3：▲22,475千円、R4：▲239,886千円、R5：▲136,383千円

経営改善に向けた主な取組（改定後）

○収入の増加

下線部は令和3年3月 改定項目

➤ 附属病院収入の増加

- ・ 新規外来患者数の増 （新規患者診察枠の設置や病診・病病連携の強化により、外来患者数を増加）
- ・ 新規入院患者数の増 （効率的な病床管理等により、入院患者数を増加）
- ・ 平均在院日数の適正化（DPC制度※における最も効率的な入院期間となるよう、入院期間を適正化し、入院診療単価を引き上げ）※DPC制度：急性期入院医療を対象とした診療報酬の包括評価制度
- ・ 査定率の縮減 （診療報酬請求内容の精査により、審査支払機関による査定率を縮減）
- ・ 紀北分院の体制強化 （診療提供体制の強化により、紀北分院の収支を改善）

○経費の抑制

➤ 人件費の抑制

- ・ 超過勤務手当の適正化（代休取得の徹底や対象となる勤務のルール統一等により超過勤務を縮減）
- ・ 教職員の定数管理（正規職員の増員抑制や学内助教等の非常勤職員数の適正化により人件費を削減）

➤ その他の経費抑制

- ・ 診療備品購入費の抑制（診療備品購入費を抑制し、減価償却費を縮減）
- ・ 医薬品・医療用材料の購入価格の縮減（取引内容の見直しにより購入価格を縮減）
- ・ 医療用機器保守委託費の抑制（スポット修繕、フルメンテナンス保守契約の比較による総費用の抑制）
- ・ 後発医薬品の導入促進（経営への貢献度の高い医薬品を中心として後発医薬品を導入）
- ・ 目的積立金の活用による後年度の減価償却費の縮減（目的積立金を活用した建物・附属設備等の整備）

経営改善計画を実施した場合の収支見通し

（単位：億円）

	H28年度 決算	H29年度 決算	H30年度 決算	R元年度 決算	R2年度 見込額	R3年度 見込額	R4年度 見込額	R5年度 見込額
業務収益	353.9	363.7	377.3	394.4	408.9	406.9	409.8	419.0
業務費用	357.3	363.2	368.0	387.6	398.0	409.5	409.7	420.0
業務損益	▲ 3.4	0.4	9.3	6.8	10.9	▲ 2.6	0.1	▲ 1.0
業務損益(薬学部除く)	▲ 3.4	0.4	9.3	6.8	14.9	1.6	2.9	1.8
業務損益(経営改善前)	▲ 3.4	▲ 9.0	▲ 7.9	▲ 9.0	▲ 2.3	▲ 17.7	▲ 20.6	▲ 24.1

業務損益(薬学部を除く)は令和5年度まで黒字となる見込

- ・ 計画の内容について、毎年度検証し、見直しを行う。
- ・ 計画期間終了時に総合的な点検および評価を実施。